

松戸市立総合医療センターで理学療法を実施された患者さんおよびご家族の方へ

研究課題

「集中治療室管理後の自宅退院の可否に影響する因子の検討」

この研究は、通常の診療で得られた記録を使って行われます。研究結果は論文及び学会等で発表される事がありますが、その際も個人を特定する情報は公表しません。

1. 研究目的

近年、集中治療室での早期からのリハビリテーション(以後リハビリ)や離床の重要性が指摘されています。その一方で重症度が高く、疾患の多様性もあり、自宅退院や転院の予後予測に難渋する場面が多く散見されます。先行研究においても、集中治療管理からのリハビリ経過や自宅可否の予後予測における内容は散見される程度であり、報告数が少ない現状もあります。そのため、今回の研究目的を、集中治療室管理後の自宅退院の可否に影響を与える因子を抽出することとしました。

当院の集中治療室における特性としては、3次救急病院であり、重症度の高い患者さんが対象となることが予想されました、そのため、重症度や入院期間、人工呼吸器の装着の有無や装着期間、外科的侵襲の有無などを踏まえた調査が必要となります。リハビリにおける分野では、集中治療室入室日から離床(端座位・立位・車椅子乗車および歩行開始日数)をそれぞれ調査します。基本的な動作や移動能力の指標として、Functional status Score for ICU という評価尺度を用いて、リハビリ開始時・集中治療室退出時・転帰時にそれぞれ評価を実施する予定となっています。また、自宅退院の可否に影響する因子として、医学的要因に留まらず、社会的な背景にも左右されるため、同居家族の有無や入院以前の日常生活自立度などの背景因子も調査を実施する予定です。

今回の研究により得られる成果として、集中治療室管理後の自宅退院の可否に影響を与える因子を抽出することが可能となり、独立因子からのカットオフ値の算出が可能となることが予想されます。そのことにより、臨床場面における自宅退院の可否の予後予測の一助になり得る可能性が示唆されます。

2. 対象及び方法

対象：2022年4月1日～2023年3月31日までに集中治療室(ICU救命・HCU救命・HCU院内)に48時間以上入室し、リハビリテーションを実施した436名の患者さんを対象とした。

方法：後方視的に診療録を参照

3. 調査期間

調査対象期間：2022/04/01～2023/03/31

研究期間：2024/3/18～2024/08/31

4. 調査内容

➤ 基本情報

年齢，性別，BMI，同居家族の有無，入院以前の日常生活自立度

➤ 医学的情報

現病歴，入院期間，集中治療室管理日数，リハビリ開始までの期間，重症度(APACHE II score)，外科的侵襲の有無，人工呼吸器装着の有無および装着期間

➤ リハビリテーション評価

離床開始までの期間（端坐位・立位・車椅子乗車および歩行開始日数）

リハビリ開始時 FSS-ICU，集中治療室退出時 FSS-ICU，転帰時 FSS-ICU

5. 情報の利用拒否

この研究の対象となる可能性のある方で診療情報等を研究に利用されることを希望されない場合は、下記の連絡先にお問い合わせください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

6. 研究者

代表研究者：板垣 仁（松戸市立総合医療センター 理学療法士）

7. お問い合わせ先

この研究についてお問い合わせがありましたら、以下の連絡先までご連絡ください。また、ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報および知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書および関連資料を閲覧することができますのでお申し出ください。

【照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先】

研究責任者：

松戸市立総合医療センター

リハビリテーション科 板垣 仁

連絡先(TEL)：047-712-2511(代表／応対可能時間 平日 8時30分から 17時)